



標準的な初期費用	なし	60万円	入所時に頭金等、初期費用は不要	頭金 約230万円位 分割も可能	管理費として 0円/1584000円/4674000円(退去時に返還)	敷金家賃9ヶ月分 または保証料家賃50%	209,940円 (保証金150,000円火災保険7,440円2ヶ月分)契約事務手数料52,500円	117万円～2,350万円 (年齢、部屋タイプ、契約タイプによる)	155,460 (保証金100,000円食費50,000円火災保険5,460円)	入居一時金120,000円 敷金60,000円 計180,000円 一時金 180,000円	入居一時金 1594万円～4625万円	入居一時金なし 保証金150,000円 事務手数料50,000円	入居時に敷金として居居費の3ヶ月をお預かりいたします。 居居費月額60,000～68,000円	1800万円～	保証金 50万円(以下相談) 礼金(10万円+消費税)	0円	
標準的な月額料金	15万	7万円～12万円	15万円～20万円	7万円～15万円 プラス電気代、洗濯代、本人の小遣い	収入に応じて 85000～160000円程度	53,000円～68,000円(食費別)	123,750円～ (家賃45,000円食費52,500円別途契約)共益費26,250円	91,350円～250,000円(同上)	131,500 (資料、共益費、自治会費、食費、生活支援サービス費)プラス介護保険の1割負担分	家賃60,000円 共益費40,000円 管理サービス費35,000円 食費25,000円	150,000 (介護保険1割負担含む)	管理費 128000円/1人 188000円/2人	175,000円～183,000円内 居居費月額、食費月額、管理費 介護保険サービスをご利用される方は別途必要	18万～	月額家賃 共益費 医療費 介護保険自己負担額 消耗品代 を含む 13万円程度	38,175円(要介護2・通い週3回・福祉通1回の条件にて)	
施設分類	地域密着型特別介護老人ホーム	軽費老人ホーム	地域密着型特定施設入居者生活介護	ケアハウス	ケアハウス	賃貸住宅	高齢者専用賃貸住宅	住宅型有料老人ホーム	高齢者専用賃貸住宅	適合高齢者賃貸住宅	有料老人ホーム(住宅型)	住宅型有料老人ホーム(終身利用権方式)	介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)	住宅型有料老人ホーム(非特定施設)	住宅型有料老人ホーム	アパート	小規模多機能型居宅介護
施設の特徴など	十分な居室空間を有しつつもユニット宅の家庭的な特長である。どの居室からも外の景色が眺められ、生活感や能力等を登録し個別ケアを大切に取組んでいる。		要介護認定を受けておられ、各階専用にご住所がある方が利用可	小規模な施設である為、大乗務のような感じがあります。買物などの外出は皆さんと一緒にいきます。バスでの送迎あり。職員も同行します。	ケアハウス(やすらぎ会)の入居条件 1.60歳以上で生活に不安のある方 2.痴呆性疾患、精神疾患を患っていない方 3.介護、介助が無くても自立的な日常生活が可能な方などの条件がありクラブ活動やレクリエーションも多様あります。 特設、デイ、介護相談センター、包括支援センター併設しています。	バリアフリーの賃貸住宅です。高齢者の一人暮らしでも安心快適に過ごせるように障壁にまで配慮した思いやり居住設計です。	別紙チラシ参照ください。	施設ではないので自由度は高い 外部のケアマネ、訪問介護も利用可能 病状も選択自由 業の量が多くても問題なし		定員16名 医師の在宅での生活が可能と當り判断がされた場合はお受けするのを基本としています。 アパート開設以来2名の方を看取りました。	入居時自立の方のみ募集 玄関にカウンターがなく24時間出入り自由 門限なし 自炊可能、食事料金はとられた場合のみ ホテル住まいの感覚で生活できる。	0泊20名の施設です。生活ハバリエを中心に、少人数施設の特徴を生かして様々なケアを提供しています。 (予約あり) 平均介護度3.1	「あくまで、構内には、居館として健康な高齢者の方が対象ですが、要支援や要介護状態の方でもご利用いただくことができます。 当ホームと併設しております介護保険サービス事業者等をご利用いただきます。よ、安心した生活をご提供できます。 ただし、集団生活に支障が無く、健康診断において感染症等の問題が無い方とさせていただきます。自分らしく過ごせる生活空間の提供と、安全で安心できる暮らしのサポートをお約束いたします。 ご本人様の希望される暮らし方を支援いたします。	京都のデザイナー辻村久信氏による作品。犬山の貴船地区に和風モダンな老人ホームを作り街づくりに貢献する。 施設は地域医療に30年の歴史がある岡部外科が対応する。	重度の要介護者専用の賃貸住宅	幅が狭いので、細いリハビリを行わず、便利になりすぎた部分を元に戻すことにより段差、昇降、立ち上がりなど日本人が慣れから行っていた「生活の中でのリハビリ」に力を入れておりません。例えば、スロープなど無かった時代に皆さんは段差で一日何回踏み台昇降をされていたか？椅子の無かった時代「お家さん」「御縁よー」「お代わり」「おしっこ」などで何回もスクワットを行っていたらどう思うか？という考えです。もちろん第1に安全を確保し、個人個人の能力に合わせて不慮な事故を招かない。無理な事は絶対にお断りしません。ご自身の居場所と共に役割を持った生活を行って頂いております。	